

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	放課後等デイサービス いろはⅡ		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 1日 ~ 令和6年 11月 22日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 1日 ~ 令和6年 11月 13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価作成日	令和6年 11月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>●活動プログラムの充実</p> <p>1月の目標を設定し、季節感を味わえる内容や工作、リミック、外出等の幅広い活動プログラムを実施している。</p>	<p>施設会議や日々の申し送りの際に、活動プログラム内容について職員間で意見を出し合い、お子様が楽しく参加出来る内容を検討し、実施している。</p> <p>活動に対するねらいは同じでも、内容が固定化しないようスケジュールを立て、職員が1ヶ月の活動内容を把握することで、日々違う内容の活動が提供出来るようにしている。</p>	<p>年2回の個人懇談やアセスメント、送迎時等でお子様や親御様からのニーズを伺い、実現させるための方法を検討していく。お子様の将来の姿を想像し、未来に繋がる活動内容を考案し、実施していく。</p>
2	<p>●活気のある、明るい雰囲気</p> <p>職員やお子様の元気な明るい声が飛び交っていることで、自然と笑顔になり、元気が湧く雰囲気。</p>	<p>職員同士のコミュニケーションを大切にし、悩み等を抱えず笑顔で支援を行える環境作りを意識している。</p> <p>ネガティブな表現ではなく、言葉をポジティブな表現に変換し、明るい気持ちでお子様も職員も過ごせるよう努めている。</p>	<p>職員が率先して活動等を楽しみ、お子様を巻き込みながら、引き続きお子様と笑顔の共有が出来るよう支援していく。</p>
3	<p>●年齢層の近いお子様同士の関わり</p> <p>小学校1年生～4年生までのお子様と一緒に過ごしている為、切磋琢磨している様子が伺える。</p>	<p>幼少期ならではの感性や感覚を大切にし、お子様の”作ってみたい、やってみたい”等という気持ちに制限を掛けないように努めている。</p> <p>喧嘩等のトラブルに対して職員が先手を打ち、回避するのではなく職員の見守りのもと、互いに納得して解決が出来るよう、お子様同士の関わりを大切にしている。</p>	<p>様々な年齢層のお子様や、地域のお子様と関わる機会も取り入れ、他者との関わり方や距離感を知る経験を積み重ねられるようにしていく。</p>
4	<p>●お子様と職員がともに挑戦を楽しみ、成長出来る環境</p> <p>日々変わるお子様の姿に向き合い、成長に合わせた支援のテーマを設定している。</p>	<p>『みんなと一緒に出来る!』をテーマに挙げ、事業所内イベントや日々の活動プログラムを企画している。応援したりされたり、励ましたり励まされたり等の経験から、少し勇気が必要なことでもみんなが背中を押し合い、勇気を出せる環境作りを心掛けている。また、職員が率先して挑戦し、様々な活動を盛り上げながら成功や失敗を見せることで挑戦への抵抗感を軽減出来るようにしている。</p>	<p>テーマのステップアップを図り、お子様の成長に合わせた設定へと都度変更していく。</p> <p>お子様と職員が、一体感を感じながら成し遂げる経験を増やすことで、ともに挑戦し成長へ繋がるような活動プログラムを取り入れていく。</p>
	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>●地域の場の活用方法と地域住民との関わり方の少なさ</p>	<p>積極的に図書館や公園を利用したり、地域のイベントへ参加したりしているが、地域住民の方々と関わりを持つことが難しい。</p> <p>土曜日や長期休み以外では、下校時間等の兼ね合いで外出が難しく、地域の場を活用出来ない。</p>	<p>今後も引き続き図書館や公園等は積極的に利用し、公共交通機関の利用も行っていく。また、季節行事等を中心に、地域のお店に訪問するなど、活動プログラムに地域の方を巻き込んだ内容を考案していく。</p> <p>下校時間が早い時等の状況に応じて、平日も地域の場を活用したプログラムを実施し、地域の方々と交流を増やせる機会を提供していく。</p>
2	<p>●支援室の環境整備、設定</p>	<p>来所後に自由時間を過ごしているお子様とおやつを食べたり、宿題をしたりしているお子様が同じ空間で過ごしている為、集中しづらい環境になってしまう。支援室内で、活動内容により、エリアを分けているが楽しそうな声が聞こえたり動きが多かったりすると、個人活動に支障が出てしまう。</p>	<p>パーテーションを活用し、自由時間とその他の活動でエリアを分けることで目の前のに集中出来る環境作りを行う。また、必要に応じて、自由時間の過ごし方を見直し、おやつや宿題に取り組むお子様が多い時は、静かに取り組める活動を提供し、落ち着いた空間になるようにしていく。</p>
3	<p>●個々に合わせた集団活動プログラムの提供</p>	<p>お子様の日常生活スキルの幅が広い為、個々に合わせた集団活動プログラム内容の設定が難しい。</p>	<p>職員がお子様一人一人の課題や強みを把握し、活動プログラムに活かせるよう取り入れていく。また、都度職員間で共有し、共通認識を持つことで、個々の目標や難易度設定に活かしていく。</p>